

# 大野 岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和7年3月24日発行 文責 校長 中尾 聡彦

## 先輩と語る会

3月4日(火)に、7・8年生を対象に「先輩と語る会」が行われました。今年度は、伊万里高等学校、伊万里実業高等学校、唐津南高等学校、敬徳高等学校から、合計5名の卒業生に来校してもらい、学校での様子の紹介や質問に答えてもらいました。すべての先輩に共通した話は、「今から勉強をする習慣をつけておくことが大切だ!」ということでした。大学や専門学校への進学、就職、資格の取得など、高校生活では、自ら学ぶ姿勢が大切だということを切々と話してもらいました。親近感のある先輩の言葉は、自分の進路について考えるととてもいい機会になったと思います。



## 「私たちが創る! 青ハルセッション」が放映されました

昨年度4月に本校に着任したときから、子どもたちの主体的な活動を応援したいという思いをもっていました。そんな中、後期課程の男子が校長室を訪ねてきて、「校長先生! 軽音サークルを立ち上げたいです!」と言い出しました。それから様々なトラブルがあり、その都度、そのトラブルを乗り越えた4人のドキュメンタリーがケーブルテレビで放映されました。

番組をご覧になった方々からは実に様々なご意見が寄せられましたので紹介します。

- 自分たちで話し合いを繰り返しながら、一生懸命にトラブルを解決していく姿に感動した。
- 「青春!」という言葉が忘れかけていたが、あの子どもたちに思い出させてもらった。
- とても自由な校風に感心した。こんな学校があるのかと思った。子どもたちの力を信じて待つ教員の姿が印象的だった。



## 第7回卒業証書授与式 23名が巣立っていきました

3月7日(金)に卒業証書授与式が挙行されました。今年度も1年生から8年生の全校児童生徒が、9年生の卒業を祝福しました。厳かな雰囲気の中に感動のある素晴らしい式になりました。

たくさんのご来賓のみなさまにあたたかく見守られながら式が始まりました。中には、入場する時から涙ぐまれているご来賓もいらっしゃいました。

23名の9年生は、15年間のそれぞれの人生を振り返りながら式に参加したことと思います。

胸を張って卒業証書を受け取る姿に頼もしさを感じました。

式辞を真剣な目で聞く姿に誠実さを感じました。

答辞をあふれる涙をこらえきれずに聞く姿に強い絆を感じました。

閉式後の気持ちが前面に出た合唱では、誇りをもって巣立つ9年生の姿に、会場は感動に包まれました。

以下は、式辞の一部です。

<式辞(一部抜粋)>

みなさんが、これから人生を歩む中においても、「涙するほど悔しいこと」「涙するほど悲しいこと」は必ず訪れると思います。それは、あなただけではなく、誰もが経験することだと思います。

みなさんの中にも、いろいろな苦悩を抱えながら、自分の力で立ち上がった友がいます。その友には、互いに心を通わせ、あたたかな絆で結ばれた友がいたはずです。友を頼ることは恥ずかしいことはありません。頼ることができる友がいることを誇りに感じて欲しいと思います。そして、これからも頼られる友であってください。

また、「悔しくて泣きたいときは泣けばいい。」「悲しくて泣きたいときは泣けばいい。」大切なのは、泣き終わった後のあなたの行動だと思います。悔しくて涙を流したのなら、涙が止まるまで努力することが大切だと思います。悲しくて涙を流したのなら、その悲しみは忘れずに、その分、人に優しくなろうとすることが大切だと思います。

みなさんには、あたたかな絆で結ばれた友がいます。みなさんには、自分の力で立ち上がる力があります。その「友」と「力」を信じて、「私は、私の人生の責任者!」「私の人生は、私が創る!」

この南波多郷学館での思い出を活力に変えて自分の人生を突き進んで欲しいと思います。

それでは、卒業生のみなさん、自らの手で、未来への扉をひらき、力強く歩いていってください。みなさんの夢が実現することを、全職員で願っています。



## 「愛郷坂」の看板設置

卒業式の前日6日の午前中に「愛郷坂」の看板(生徒によるデザイン)が設置されました。

南波多郷を象徴する「なし」「ぶどう」「タイワンツバメシジミ」が配置され、登校する子どもたち、来校される方々の目を引き、非常に明るい雰囲気を醸し出してくれます。

桜が咲いた時の風景が楽しみです。